

研究所ニュース No.61

りべらしおん



「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：公益社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎内 TEL 092-645-0388 FAX 092-645-0387

Mail: info@f-jinken.com URL: http://www.f-jinken.com/



望塾頭・
教覚寺住職)

講演する平田崇英さん

「史実と授業・啓発の結合をめざして」を開催
宇佐航空隊遺構保存運動と町おこし 平田崇英さん

二〇一三年十一月二日(土) / 北九州AIMビル

福岡県人権研究所主催の「史実と授業・啓発の結合をめざして」が、十一月二日(土)北九州国際会議場AIMで開催された。豊の国宇佐市塾塾長で教覚寺住職の平田崇英さんが、「宇佐航空隊遺構保存運動と町おこし」と題して講演した。講演に先立ち、当研究所理事の加藤陽一さんが、「沖繩特攻作戦と九州の戦争遺構」と題し、特攻作戦が行われた社会的背景や軍隊内部の状況などを解説した。

宇佐市には、終戦の年まで「宇佐航空隊」が置かれており、現在も十機の掩体壕(爆撃から飛行機を守る防空壕)などの戦争遺跡が残っている。「宇佐航空隊」は、実戦機を用いて訓練する練習航空隊として一九三九(昭和一四)年に開隊。敗戦色が濃厚になると神風特別攻撃隊の中継基地となり、この地から一五四名の若者が出撃・戦死している。

平田さんは、一九八七(昭和六二)年に「豊の国宇佐市塾」を開塾。掩体壕などの戦跡保存運動、冊子『宇佐航空隊の世界』の発刊、副読本『えんたいごうのこのるまち』の作成協力など、宇佐市の戦跡や史跡の発掘・保存活動を精力的に行ってきた。そのような運動

や活動が実り、今年六月には「宇佐市平和資料館」が開館した。館では、実物大の零戦二一型模型をはじめ、宇佐航空隊や出撃した特別攻撃隊の資料、空襲の様子など、多くの戦争史資料が展示され、命の尊さや平和の大切さを伝えている。

資料が乏しくなったのを機に「発掘・保存」から「伝える」ことにも力を入れ、二〇〇五(平成一七)年より、豊の国宇佐市塾では「宇佐航空隊平和ウォーク」を毎年開催している。本年五月に行われた第九回目のウォークには、県内外から約六百人が参加し、大イベントへと発展した。地元の小学生らによるガイドも好評で、「子どもガイドは、子どもたちだけでなく、両親や祖父母、周囲の大人が学ぶきっかけにもなるんです」と平田さんは語った。

これからの課題としては、遺跡の現状把握と保存・活用方法を考えることや戦争の歴史を次世代に伝えることなどを挙げ、将来は「平和ミュージアム」を開館させたいと話された。

以下、参加者の感想を一部紹介する。

〈加藤陽一さんの解説について〉

「歴史的背景がよくわかりました」「とても詳細でかつ全体をフカンしていた」「今後どう授業に生かすかを考えます」「私は大本営発表の嘘の戦果を信じていましたが、初めて聞く加藤先生の説明に驚き、この年になって知る実態、如何に欺かれていたかと恥じる次第です。」

今日はよい機会に恵まれました。先生の話を聞いていない多くの人にも知って頂きたいので、是非本を出版して下さい」

〈平田崇英さんの講演について〉

「ユーモアを交えて面白かったし苦労もかいまみえました」「発掘―保存―伝承を通じた人づくりには尽きるという言葉が印象的でした」「戦争を知ってこそ平和を考えられることができるといえるのは、そうだと思います。フィールドワークの子どもガイドという発想を参考にしたいです」「もっと聞きたかった」「加藤先生の説明に地元の細かい実情が加えられ、本当によかった。資料本を買って読みたい」「大切に思えること―就中戦争の歴史を学んでこそ平和を語る、が深く印象に残りました」



北九州市制五〇周年記念事業
「ふれあいフェスタ2013」に参加
十一月二四日(日) 西日本総合展示場

北九州市、北九州市教育委員会主催の「ふれあいフェスタ2013」が北九州市西日本総合展示場で開催された。イベント会場では、女性モデルとして活躍し、男性であることをカミングアウトした佐藤かよさんの講演やJOY倶楽部「ミュージックアンサンブル」による演奏などが行われた。福岡県人権研究所は、「若松軍艦防波堤物語」の記憶を語り継ぐ」と題した十数枚のパネルを会場に展示。当研究所の活動紹介や書籍の販売を行った。



「若松軍艦防波堤」の説明を聞く見学者(右)

二〇一三年度 第一回「人権啓発担当者のつどい」
「人権教育・啓発の現状と課題」

講師・谷口研二さん
十月二四日(木) 福岡市中央市民センター

宮脇繁紀(啓発部会長)

十月二四日、当研究所啓発部会主催で「啓発担当者の集い」を福岡市中央市民センターにおいて開催した。台風が気になる日であったが福岡市を中心に諸自治体から啓発担当者六〇名の参加者を得た。

主催者挨拶を啓発部会長の宮脇繁紀と福岡市生涯学習課の馬場伸一課長が行った後、「人権教育・啓発の現状と課題」と題した講演を福岡県人権研究所の谷口研二事務長が行った。この「つどい」は、福岡市内及び北九州市内を交互に、福岡市教育委員会、北九州人権フォーラム21と協力・連携をはかりながら年二回開催している。印象に残った講演内容の一部を紹介する。

社会変革と自己変革は両輪、

そして人権は教育・行政の基礎

国連の「持続可能な開発のための教育の十年」(2005～2014年)では、「教育は人間変革、社会変革の駆動力」と位置づけ「グローバルシンキング、ローカリイアクト」つまり

「地球的視野で考え、身近な問題に取り組み市民としての行動」が提唱されている。パキスタンの人権活動家で一六歳のマララさんは「私は加害者への復讐を望まない、加害者やその子どもたちも教育を受けてほしい」「一本のペンと一冊の本が世界を変える。教育こそが唯一の解決策」と国連で演説した。社会変革、自己変革にとって、憎しみや攻撃性を見つめコントロールすることの大切さ、教育と知識の重要性を改めて確認したい。

国際的な人権教育の潮流は「社会変革と自己変革」が両輪であり、それは「人の世に熱あれ、人間に光りあれ」とした全国水平社創立大会の「宣言」の思想にも通底している。

調査に見る若者の意識

調査による近年の若者意識としては、相対的に人権問題、部落問題への関心は低く、「同調と傍観」という傾向が高い。

人権教育は学校教育の基礎である。日本でも「代替案の思考力」「コミュニケーション能力」などがうたわれてきている。しかし、実際に人権が教育(行政)の基礎に位置づけられ、規範とされているのであろうか。

また、ある大学の一年生に対する調査では「被差別部落の起源」について、「職業起源」と回答した若者が多かったという。部落問題を含む正確な知識としての教育がなされているかどうかを検証しなければならぬだろう。

非攻撃的自己主張のスキルアップ

コミュニケーションスキル(非攻撃的自己主張の技)には、四つのパターンが考えられる。非攻撃的自己主張、攻撃的自己主張、自己及び他者の否定、沈黙の四ステージである。水平社「宣言」は、「人間を尊敬することによって自ら解放」すると言うように加害者の変革を促し、支援するコミュニケーションの姿が示されていることに改めて学びたい。

最近のある意識調査では、「同和問題の解決は公的責任」と思っている人の多くが「同和問題は自分の問題ではない」と回答している。人権問題を実践的課題と認識していない傾向がうかがえる。

一九六五年の同対審答申や県の「基本計画」等にある「差別を温存する土壌」に踏み込むための「現実の社会に生起する様々な事象に対して確固たる人権意識」が形成されておらず、「非科学的な風習」に対して世間一般の考えに同調する傾向にある「ことと関係してはいるのではない」か。

今年六月



講演する谷口研二さん

の研究所の総会で記念講演をお願いした阿久澤さんは、「部落問題とその解決に対する市民意識の現状において若い世代の自己責任論の台頭と、公的な問題解決に対する行政への信頼低下」という調査結果は想定外の実態だったと指摘している。若い世代が、民主的システムも、民主的手続きも信頼できないと感じていることは民主主義の危機であり、これまでの人権教育・啓発が、若者の市民性(コミュニケーション・社会と自己の変革の両輪を視野にした)を十分に育む役割を果たしてこなかったことへの反省が必要ではないか、とも指摘していることに注目したい。

知識を実践化することへの動機付け

例え豊富な知識があっても実践されないと変革の力にならない。学んだことをコミュニケーションで実践し検証しながら地域社会と自己の変革を展望する地道な作業が欠かせない。

「やる気スイッチ」を入れるには自尊心を高めることや、成長モデル(人生モデル)との出会いを仕組みことなど、教育・啓発の工夫が求められる。

講演終了後、啓発部会の加来さんがまとめと謝辞を述べて会は終了した。以下、参加者の感想を紹介する。

・啓発の手がかりとなる見方、考え方を改めて学ぶことができ、大変有意義だった。

・内容がとても濃くて、もっと詳しく勉強したいと思った。自分の生き方にも応用したい。行政と市民が両輪となって取り組まねばと感じた。

・わかりやすい話、力(情熱)を感じる話だった。業務に活かせる内容も多かった。

・とても勉強になった。今後は自分なりに考えて周りの人の意見も聞きながら明日から活かしていきたい。若い人の意識については危惧しています。

・人権啓発を行うにあたって参考になるキーワードをたくさん教えていただいた。

・啓発とはコントロールの訓練であるという部分が印象的だった。

・差別をなくす運動の取り組みの変換が求められているという危機感をもつことができた。

・人権教育を分析的、構造的、論理的に具体化していただいて本当に勉強になった。二〇年以上このセクシオンに携わってきたが、このように展開されたのは初めてで心に残った。

・当町の職員研修でも講演していただきたい。差別の芽を摘み取るのではなく、差別意識を認めた上で行動をコントロールするというのは新たな気付きであった。

「ツラッティ千本」の紹介

NPO法人・くらしネット21

古川 豪

今号では、京都市の「ツラッティ千本」の活動を、事務局の古川さんに紹介していただきます。

◎沿革

京都には被差別部落(同和地区)に関する人権資料の展示施設が二か所ありますが、京都駅の東にある「柳原銀行記念資料館」に先駆けて、一九九四年に開館したのが、市の北西部にある「ツラッティ千本」です。

千本地域の旧・隣保館の有効活用ということで、地元での部落史研究活動や住民参加のまちづくりなどの成果を紹介しながら、さまざまな人権問題について学べる施設として誕生し、年間四千人の利用者があります。

「ツラッティ」という名称には、みんながお互いを認め合って「連れあって」生きていこう。とか、

みんな「連れあって」見学にきてください。そんな気持ちがちがこめられています。



ツラッティの看板

八幡地区企業内同和問題研修推進委員会主催
第一二回企同推フィールドワーク
十月二十八日(金)(北九州市門司区)
大里東第二公民館

十月二十八日(金)、八幡地区企業内同和問題研修推進委員会(北九州市)主催のフィールドワークが、当研究所と部落解放同盟門司地区協議会の企画のもと行われた。会場の大里東第二公民館には、北九州市内各地の企同推担当者、研究所・地元スタッフら約三〇人が集まった。

八幡地区企同推は、「差別部落の歴史や実態を現場で学ぶ」ことを目的として、毎年人権関連地のフィールドワークと交流を行っており、本企画は二二回目となる。

はじめに、企同推の松澤会長、部落解放同盟門司地協の隠委員長はじめ関係役員の挨拶があり、南川書記長のガイドで地区を巡った。

南川さんは、運動の成果として住宅改善が行われたが、従来からあった相互扶助の精神、助け合いの人間関係が団地に住むことで弱くなっていくことに対して、コミュニケーションを形成していくことの重要性などを語った。

大里東児童館では山崎書記次長が、児童館を通じた地域の教育事情について説明。大里東集会所では、「NPO法人もやいケアサービス」の活動について、発足のきっかけや高齢者の実状などを岡部理事長が話された。

◎充実した施設、展示

五つの展示室と、大・小ふたつの研修室、展示物の補修をする作業室、書庫などを備えています。展示物は、展示可能に整理中です。

第一展示室は、千本地区の概要と、戦後の住環境整備が、地域の学習センターに集った子どもたちが作成した模型や、現状の模型、図面、写真など使ってわかりやすく展示されています。



第一展示室

第二展示室は、前近代までの京の都と千本の歴史を紹介しています。圧巻は、「洛中洛外図屏風(高津本)」実物大レプリカで、ここには絵解き説教、

猿回し、そして皮革の生産を業とする人々が生き生きと描かれています。

昨年、千本地区に隣接す



洛中洛外図屏風のレプリカ



南川さん(左3人目)の説明を聞く参加者

門司地協は全日本同和会や地区外との住民交流も活発に行っている。住民交流のきっかけは、二〇〇六年に起きた「餓死事件」であった。「この細い道はかつて『橋のない川』だった。道をはさんだ団地で餓死事件が起きたことにショックを受けている。門司地協の福祉活動は地区住民にばかり目を向けていた。地区外とも交流があれば救うことができたかもしれない」と南川さんは語っていた。

フィールドワークに参加した企同推担当者は、「運動体や地域の垣根を越えて活動していることに感銘をうけた」「人を大切にする地区だと思った。心が温かくなった」と語っていた。



「御土居」の立体地図

る佛敎大学の学生と共同で制作した「御土居」の立体地図が加わり、秀吉・徳川の政権下で移住を余儀なくされた人々のこと、刑警吏役をつとめた人々のことが理解しやすくなったと好評です。

幕末から明治にかけての千本、蓮台野村年寄だった益井元右衛門と茂平親子の業績も紹介しています。元右衛門は解放令に先立ち京都府に「穢多の身分を省き、士民同様に扱っていただきたい」と嘆願書を提出。また、この親子による蓮台野村小学校、眼病院、斃牛馬化処理場の設立など、地域での教育と医療と殖産への尽力を展示でみる事ができます。

第三展示室は、明治の松方デフレ以降のこの地の経済的困窮のようすを知ることができ京都府に編入時の文書などを展示しています。そして、全国水平社の初代委員長・南梅吉(滋賀県近江八幡出身)の居宅が千本にあり、その南梅吉の奔走ぶりも展示されています。また本館からのフィールドワークでは、前

隣保館(現・北いきいき市民活動センター)近くに、南梅吉の居宅があったことから「水平社宣言」末尾の句を刻んだ碑を見ることができま



1956年の千本の全景模型

りのようすまでを展示しています。

第四展示室は、戦後の改良住宅事業がはじまる以前の千本の全景模型や古民具から、最近の共生・永住・自治を標榜した住民参加のまちづく

第五展示室は、中世の北野神社出入りの河原者「千本の赤」の絵本原画を通常は展示していませんが、企画展、特別展の会場にもあてています。「ツラッティ千本」では開所以来一九年間、同和問題をはじめさまざまな人権問題を企画展、特別展のテーマとして取上げてきました。最近では「ホームレス」「エーブルアート」「児童館・学童保育所」、そして今秋は「性同一性障害、そして性の多様な在り方をめぐって」と題して第五展示室で企画展を展開しました。

五年前まで、「ツラッティ千本」は隣保館分室・資料室という位置づけで、市の直営施設

でしたが、現在は千本地域のNPO法人「くらしネット21」が市の委託をうけ管理運営、人権啓発・研修、資料研究の業務にあたっています。隣接する佛敎大学を会場にした企画展関連シンポジウム開催、先述の「御土居」模型の共同制作など、大学とのパートナーシップも深めており、いよいよ来年で開館二十周年を迎えます。ぜひ、みなさん「連れだって、つれあって」おこしください。



佛敎大学内のシンポジウム

◎来館のご案内

開館時間 午前十時〜午後四時三〇分
休館日 日曜日・月曜日、祝休日、年末年始
入館料 無料

(案内ガイドも無料ですが予約が必要)
所在地 京都市北区紫野花ノ坊町二三一
交通 市バス「千本北大路」下車
電話 075-493-4539

URL <http://www.city.kyoto.lg.jp/> から検索

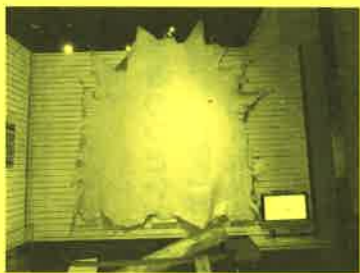
会員の声

大阪・奈良における
人権関係史資料等の調査研究報告

十一月二十九日から三〇日にかけて、松本・井元研究会の三名は、松本・井元資料の保存展示・発信・収集方法の調査研究のため、大阪・奈良の人権研究機関に行きました。

一日目の大阪では、まずJR環状線弁天町駅北口から歩くこと五分、「AIAIおおさか」(HRCビル)電子・人権図書資料室を訪問。近年の部落史関連の書籍がすぐ手の届くところに並べられたロビーを抜け、エレベーターで昇ること十階、本多和明さんが私たちを迎えてくれました。

電子・人権図書資料室は、現在、蔵書の電子化(PDFファイル)を急いでいます。膨大な図書の種類を保管する場所と費用をどうするかという問題に、行き詰りをみせたことがきっかけでした。増え続ける史資料をどうするか。この課題



リパティ大阪の皮革の展示

は、どの研究機関も無関係ではいられない問題です。福岡県人権研究所もまた然り、私たちはそう考えさせられました。

次は、JR環状線二つ隣の芦原橋で降り、私たちはリパティ大阪(大阪人権博物館)に向かいました。館長の朝治武さんが、軽快な大阪弁でリパティ大阪の現況を話して下さいました。しかし、その内容は、橋本市政で予算が打ち切られたリパティ大阪の存続に関わるもので、私たちは底冷えのする思いでお話を聞きました。

朝治武さんに依頼して小学校教室三つ分の広さで、中二階建てのバックヤードも見ることができました。部落・ハンセン病・在日・アイヌ・水俣病・障害者など、それぞれの領域ごとに膨大な物資料と文書資料が保存されており、文書類は桐の筆筒に収容されています。

二日目は、奈良の水平社博物館に向かいました。天王寺から特急で四五分、近鉄橿原神宮前からタクシーで一五分ほど行ったところに水平社博物館があり、すぐ目の前が西光寺でした。

水平社博物館では、学芸員の



水平社博物館史料の保存環境

駒井忠之さんが、文書保存の状況について詳しくお話しして下さいました。中性紙の封筒に文書類を一点ずつ入れ、それを桐の筆筒に収容するという方法がとられていました。桐は湿気を取るなので、史料保存に最適な素材ということでした。



保存方法についての説明を聞く

少し時間が残ったので、畝傍山のケモノ道をかきわけ、かつて山の中腹にあった洞部落を探しました。強制移住以前の生活をのびせるものとしては、共同井戸が遺されていただけでしたが、落葉の下や土のなかに、茶碗などのかつて用いられた生活用品の破片を今でも見つけることができました。

当研究所が依頼している松本治一郎・井元麟之氏関係の貴重な史資料の整理をプロジェクトの任務としている私たちにとって、今回の視察訪問は大変意義あるものとなりました。忙しいなか、丁寧に対応してくださった本多和明さん・朝治武さん・駒井忠之さんに、この場をお借りして御礼申し上げます。

竹永茂美、塚本博和、関儀久
(特別プロジェクト「松本・井元研究会」)

お知らせ

《福岡県人権研究所主催》

○第二回人権啓発担当者のつどい／第一七五回定例研究会

▽テーマ 「市民力を育む人権教育・啓発のすすめ方」

▽講師 平沢安政さん（大阪大学教授）

▽日時 二〇一四年二月二十八日（金） 一八時三〇分～

▽会場 北九州市立福祉会館（ウエルとばた）二階

多目的ホール （〇九三―八七―七二〇〇）

▽住所 北九州市戸畑区汐井町一番六号（

▽アクセス JR戸畑駅南口より徒歩一分

▽資料代 五〇〇円（申込み不要）

《福岡県人権啓発情報センター主催》

○県民講座 ―要申込み―

▽日時 二〇一四年一月十一日（土）一三時～一六時三〇分

▽内容 「DVの実態と支援」 原健一さん（佐賀県DV総合

対策センター所長）

「高齢者の人権擁護」 西崎緑さん（福岡教育大学教授）

▽会場 クローバープラザ七階（JR春日駅より徒歩一分）

○映画上映会 「葦牙ーあしかびー」

▽日時 二〇一四年二月八日（土）一四時～一六時

▽会場 クローバーホール（クローバープラザ内）

▽入場料 無料（申込み不要）

「葦牙ーあしかびー」は児童虐待をテーマにした映画で、子どもたちの「こころ」をつくる物語です。

福岡県人権研究所 年末年始の閉局について

閉局日 十二月二十八日（土）～一月五日（日）

研/究/所/日/誌/か/ら (2013.10.30~12.20)

10月

30（水） ニュース「リベらしおん 60号」発行

11月

02（土） 史実と授業・啓発の結合をめざして(AIM/北九州市)「沖縄特攻作戦と九州の戦争遺構」
（解説：加藤陽一）、「宇佐航空隊遺構保存運動と町おこし」（講師：平田崇英さん）

06（水） 部落解放研究第47回全国研究大会（～11/08 高松市）

11（月） 事務局会

14（木） 第34回松本・井元研究会

18（月） 事務局会

20（水） 監査(吉塚合同庁舎)

21（木） 第35回松本・井元研究会

22（金） 2014年人権社会確立第34回全九州研究集会現地実行委員会(福岡市)

24（日） 北九州ふれあいフェスタ 2013（西日本総合展示場/北九州市）

25（月） 事務局会

26（火） 第8回歴史学習プロジェクト(須恵町)

30（土） 教育部会(第5回全国人権教育と生活綴り方研究大会(小郡市)に参加)

12月

01（日） 執行理事会(研究所事務局)

02（月） 事務局会

06（金） 第30回同和問題に取り組む全国企業連絡会全国集会（福岡国際会議場/福岡市）

公益法人会計セミナー 全国夜間中学校研究大会(奈良市)

13（金） 第36回松本・井元研究会

14（土） 第174回定例研究会(兼ジェンダー部会/福岡市ココロンセンター)

「伊藤野枝と代準介」(講師：矢野寛治さん)

外国人部会(福岡市) 部落史研究部会(福岡市)

15（日） 第76回マイノリティ研究会(大阪市)

16（月） 事務局会 第2回部会長会(研究所事務局)

(※住民意識調査等の受託事業に関する調整・事務・研究・研修や教育・啓発に関する相談業務や研修会等の企画、講師依頼への対応等については省略しています。)